

AOYAMA OIKOS NOMOS



青山学院大学経済学部同窓会会報

2009. 3. 31 アオヤマオイクスノモス 第14号

A-Econ 60, E-Alumni 10*

伝統と進化

—経済学部の昨日、今日、明日—

経済学部長 平澤 典男



2009年、経済学部は創立60周年を迎えます。経済学部ではこれを機に、「伝統と進化—経済学部の昨日、今日、明日—」を統一テーマとして幾つかの記念事業を展開することとしました。

神話が綴られる時代から、あるいはそれ以前から、人は連続する日常の中に「伝統と進化」を具現化する装置として「儀式」を取り入れてきたといえるでしょう。「儀式」は変わるべきものを変え、変えてはならないものを受け入れるための仕組みなのです。(ラインホールド・ニーバーの祈りを表象化したものと言うこともできるでしょう。)今、経済学部にかかわるものにとっては、変えてはならないものは60年の歴史を重ねる中で育まれた学部の**伝統**であり、変えねばならないものは学部を取り巻く新たな環境に対応できない臆病さです。勇気ある変革が学部の**進化**をもたらします。逆説的に言うなら進化することで

伝統が維持されるのです。私たちが学部創立60周年を記念する「儀式」の意義もそこにあります。進化し、伝統を維持するために私たちは、経済学部の昨日を訪ね、今日を考え、明日に備えるための3つのプロジェクトを展開しようと考えました。

第一は「昨日」を訪ねるプロジェクトです。経済学部を退職された、研究意欲いまだ衰えず、学部への貢献の熱意さめやらぬ先輩諸兄に集まってもらい、現職教員、職員、学生に対して学部の歴史を語り伝統を伝えてもらおうと思います。この団体にAoyama Emeritus Economist Club(青山エメリタス・エコノミスト・クラブ AEEC)という名称はいかがでしょうか。

第二は「今日」を考えるプロジェクトとしてシンポジウムと講演会を計画しています。伝統と進化という記念事業スローガンは時間軸を強調していますが、現在(今日)という瞬間は空間軸の視点も重要です。2008年4月、われわれの学部は新学科を設置し、創立以来はじめて本格的な2学科体制に踏み出しました。新しい学科は「現代経済デザイン学科」。

「地域」と「公共」をキーワードとして作られたこの学科は経済学の理念と方法を地域(空間軸)の問題に活用できる人材を育成します。そこで、記念事業実行委員会は青学経済学部出身の市長4氏に声をかけパネルディスカッションを企画しました。新学科のアカデミックな「智」と現場の「智」の出会いはずや実り多きものとなり、グローバル化時代の新たな地域社会像を描き出すきっかけとなると確信しています。

一方、講演会は、経済の「今日」に焦点を当て「明日」に備える知恵を模索するものと考えています。すなわち、100年に一度の大不況の後に何が来るかを問いかけます。時代は資源と技術で大きく制約されます。労働と農業が中心だった時代にはじまり、機械と工業が支配する時代、金融情報と流通の時代を経て、次は知識とネットワークの時代と言われています。今回の不況の後の経済社会はICTが牽引するのではないかと考えるひとも多いでしょう。そこで、記念事業委員会はマイクロソフト社とEMCジャパン社のトップを講演者として依頼しました。ICT巨人の描く世界戦略から得られるヒントは次の時代に今どう備えるべきかを示唆してくれることでしょう。

第三は「明日」プロジェクトです。私たちはこのプロジェクトの推進主体を学生と考えています。4月になりましたら、学部学生に企画提案を呼びかけようと思います。経済学部の学生の独創的なアイデアが新しい時代の経済学部を示してくれることでしょう。

*A-Econ 60：青山学院大学経済学部60周年を意味します。

E-Alumni 10：青山学院大学経済学部同窓会10周年を意味します。

経済学部60周年記念事業は経済学部同窓会10周年記念事業と密接な連携をとって実施することが約束されています。今後、経済学部の事業は同窓会の協賛で、同窓会の事業は経済学部の協賛で実施されることになります。

経済学部創立60周年記念事業計画

1. Aoyama Emeritus Economist Club
(青山エメリタス・エコノミスト・クラブ AEEC)の設立
【設立総会】2009年7月22日(水)
2. シンポジウム
【テ - マ】(仮)発信 グローバル化時代の地域社会像
—自治体と大学の連繫を通して—
【日 時】2009年11月7日(土)
【場 所】青山キャンパス ガウチャーメモリアルホール
3. 講演会(1)
【テ - マ】(仮)危機的大不況、その次の時代を展望する
—ICT巨人の世界戦略を通して—
【日 時】2009年10月
【場 所】青山キャンパス ガウチャーメモリアルホール
4. 講演会(2) 計画中
5. 学生企画イベント 計画中

天野 知恒兄を偲びつつ

飯村 肇 ('60)



08年8月、経済学部同窓会会報(オイコスノモス)の発行者でもある経済学部同窓会会長天野知恒さん('56)が急逝されました。享年75歳でした。

心より御冥福をお祈りすると共に、謹んでご報告申し上げます。

天野さんは10年前の経済学部同窓会創立メンバーの一人で同窓会立ち上げのため諸先輩ともども大変苦勞をされました。

経費節減のため会報発行に際し、手分けして折込、封入、封緘作業などを皆でする時に、必ず自ら先頭に立って黙々と作業を続けられたお姿が目には浮かびます。

天野さんは温厚かつ誠実なお人柄で、敬虔なクリスチャンでした。

私生活ではスポーツ観戦を愛され、神宮球場の大学野球部の試合応援には欠かせないメンバー

でした。また大学ラグビー部OBクラブの推薦会員として各試合に熱心に応援に行かれ、そして大学バレーボール部の観戦応援にも必ず行かれておりました。

高等部野球部の東京都地区予選は試合のたびに野球場が西へ東へと変わります。何処の球場にも必ず天野さんがいらっしゃいました。

最近はお孫さんの隼人君が高等部に進学され、野球部員として活躍されるようになり応援には益々、力が入っておられました。

学校法人評議員や校友会監事、大学部会副部会長なども歴任され母校の発展のため尽力されましたが、経済学部同窓会会長として、直近では在学生支援のための「経済学部同窓会給付奨学金」の創設、「ゼミ連」支援を始め後輩のための支援策を考えておられました。

青山学院創立135周年、経済学部創立60周年、経済学部同窓会創立10周年にあたる09年度事業に対する天野さんの思い入れ、意気込みは大でした。天野さんの功績に報いるためにも計画されている09年度事業をぜひ成功させたいと願っております。

会員の皆さまの参加、ご協力をよろしく願いいたします。

経済学部ゼミナール連合活動報告

経済学部ゼミナール連合 代表 鈴木いずみ ('09)

私達青山学院大学経済学部ゼミナール連合(通称ゼミ連)は、2007年12月12日に設立し、現在4年生15名3年生13名の合計28名で活動しております。

日々の活動理念は、「学生の自己成長・経済学部の価値向上」です。学生が自己成長できる場を作る、又そこからゼミ連の活動に関わる私達を含むゼミナール加入学生も自己成長を実現する。そして、それらを経済学部の価値向上に繋げていく、という意味合いを込めております。

主な活動内容は、前期・後期に一度ずつのゼミ幹会議、ゼミナールガイダンスの運営、ゼミナール紹介冊子の作成、年に数回の就職支援セミナーの開催などがあります。

現在は経済学部60周年記念に向けてのイベント準備と、卒業記念パーティーの開催準備に尽力しております。どちらも学部としてゼミ連が主となり活動する初めての試みとなるので、役員全員で切磋琢磨しながら活動しているところです。

経済学部同窓会の大先輩方には、設立時から温かな声援と支援金提供をして頂き大変感謝しております。ゼミ連に参加する以前は、同窓会の存在を頭の隅のほうで認識していたというのが、正直なところです。しかし、同じ経済学部を卒業したという接点を持つ大勢の方々が、たくさんの「頑張れ!応援している!」という言葉を下さったり、実際に懇親会などの場で貴重なお話をしてくださったり、ゼミ連にとって同窓会との方々との繋がり、今やなくてはならないものとなっております。

これからゼミ連は、益々活動の場を広げ、学生であるからこそ実現できること、学校に対して貢献できることを追及し実現していきます!そして今後益々経済学部同窓会との接点を増やし、学生と同窓会とを繋ぐ役割を担っていきたいと考えています。そして個人的には卒業後は同窓会の一員となり、今後はOGとしてゼミ連を支援していく存在になりたいと考えております。

ゼミ連は設立してまだ1年と3ヶ月で、手探り状態の中ではありますが、役員一同一丸となって活動しております。今後とも、ご支援の程よろしく願います。

「経済学部同窓会給付奨学金 ～給付奨学生からの声～」

幹事長 富田 直 ('93)

皆様ご存知のとおり、「経済学部同窓会給付奨学金」は2004年度よりスタートし、これまで6年間に14名の経済学部在學生に累計210万円給付することができました。これまでに届きました給付奨学生からの声の一部をご紹介します。今後ともご支援・ご協力の程よろしく願い申し上げます。

—経済学部同窓会給付奨学金受給者の近況報告—

大学4年生となり、学業とアルバイト、更に就職活動の難しい状況にありました。また経済的に厳しかったため、この経

濟学部同窓会奨学金の給付を希望いたしました。

給付して頂いたことにより、アルバイトの軽減と、学業への専念、また予めから志望していた職に就く為に徹底して活動する事が出来、内定を頂くことができました。

今のこのような状況にあるのも、奨学金により、より良い環境を与えて頂いたからです。

ぜひ、今後も私のような後輩に給付をお願いします。

本当に有難うございました。

(2006年度受給者Aさん)

経済学部同窓会主催公開講演会について

佐藤 英二 ('74)



私ども経済学部同窓会主催公開講演会は、2005年5月の第一回講演会を皮切りに、昨年11月26日には通算で十二回目を数えました。

第一回開催当時は同窓会が発足してちょうど6年経過し、同窓会活動の一環として会員増強と共に同窓会会員へのフリンジ

ベネフィット等を目的として超一流の講師をお呼びして講演会を開催しようということからスタートしました。

第一回は「企業は大学にどのような資質の学生を求めるか」というテーマでジャーナリストの島野清氏にご講演を頂きましたが、初回ということから「同窓会主催講演会」の認知度も低く参加者は40名程度でした。

その後、第二回の「日本経済の構造変化と景気展望」飯塚尚巴氏（第一生命経済研究所）、から第十二回の「会社法・金融取引法の見方―動く基礎理論」上村達男氏（早稲田大学法学部長）まで、そうそうたる顔ぶれの方にご講演を頂き、回を重ねる毎に、当該講演会の認知度も高まって来ていると思っています。



過去の講演会録は同窓会ホームページに掲載しておりますので、ぜひご一読ください。

テーマはその時々、の潮流に沿ったテーマを選定し、そのテーマに相応しい講師の方にアポイントして運営しております。当初は講師探しにも苦労しましたが、当同窓会の元会長である森啓氏（'58）が「経済倶楽部」の会員であり、また同倶楽部は毎週金曜日の午後会員向けの講演会を主催している

事から、同倶楽部と提携する事により講師を紹介して頂くシステムを採用致しました。

従いまして、現在は講師探しに四苦八苦するという事はありません。今後は更に知名度を高め、ゆくゆくはガウチャー・メモリアルホールを埋め尽くす講演会を開催出来ればと考えております。

正直言って参加者は毎回50～60名程度とまだまだ一流講師の方をお呼びした会にしては寂しいものがあります。私共の集客努力不足もあるかと思いますが、会員の皆様方におかれましても同窓会活動を盛り上げる為に、何卒講演会へのご参加をお願いする次第です。

地方在住の会員の方は直接参加する機会は少ないかと思いますが、今後も臨場感溢れる講演録作成に努めますのでご期待下さい。

講演会は同窓会会員の方にご参加願ひ、「会員満足度」を高める事が本来の目的であり、同窓会役員の自己満足であってははいけません。その為にも講演会にご参加頂いた方には都度アンケートを実施しており、次回以降の運営の参考にしております。過去12回の講演会内容に関しては、概ね「良かった」という評価は得ておりますが、これに満足せず、一人でも多くの会員の方に「次回もまた聴きたい」と思っ頂ける同窓会活動として育んで行く所存ですので、会員各位のご理解とご協力を改めてお願い申し上げます。

最後になりましたが、次回第十三回講演会は5月14日（木）に「地球環境問題を考える（仮題）」のテーマで山本良一氏（東京大学生産技術研究所教授）をお招きして開催致しますので、奮ってご参加下さい。



開催日	タイトル	講師
2005年5月19日(木)	「企業は大学にどのような資質の学生を求めるか」	島野 清氏 (ジャーナリスト)
2005年11月24日(木)	「日本経済の構造変化と景気展望」	飯塚尚巴氏 (第一生命経済研究所)
2006年5月11日(木)	「内外経済とマーケットの今後」	上野泰也氏 (みずほ証券)
2006年7月6日(木)	「バーナンキFRB議長とアメリカ経済の行方」	中岡 望氏 (ジャーナリスト)
2006年10月5日(木)	「国際連結経営におけるM&Aの実務」	金児 昭氏 (信越化学工業顧問)
2006年12月7日(木)	「戦争を回避するリスクマネジメント」	原田 泰氏 (大和総研)
2007年6月13日(水)	「日本の政治はどう変わっていくのか」	石川一郎氏 (日本経済新聞)
2007年10月3日(水)	「ポストプーチンを巡る死闘」	小林和男氏 (元NHKモスクワ支局長)
2008年3月19日(水)	「オバサンの経済学」	中島隆信氏 (慶応大学客員教授)
2008年7月2日(水)	「資源インフレと世界経済の今後」	柴田明夫氏 (丸紅経済研究所)
2008年10月16日(木)	「国際金融市場におけるイスラム金融の意義」	吉田悦章氏 (国際協力銀行)
2008年11月26日(水)	「会社法・金融取引法の見方―動く基礎理論」	上村達男氏 (早稲田大学法学部長)
2009年5月14日(木)	「地球環境問題を考える(仮題)」	山本良一氏 (東京大学生産技術研究所教授)

INFORMATION

- ◆ 2009. 3. 25(水) 新卒業生入会勧誘
(学位記授与式・卒業式)
 - ◆ 4. 4(土) 入学式
 - ◆ 4. 23(木) 第1回常任幹事会
 - ◆ 5. 14(木) 経済学部同窓会主催公開講演会
「地球温暖化問題を考える」
 - ◆ 5. 21(木) 2009年度総会・懇親会
※詳細は同封別紙をご参照ください。

経済学部創立60周年・
同窓会設立10周年記念事業
 - ◆ 7. 22(木) AEEC(青山エリタス・エコノミスト・クラブ)の設立
 - ◆ 10月中 AEEC設立総会
講演会(仮題)
「危機的大不況、その次の時代を展望する
—ICT巨人の世界戦略を通じて—」
 - ◆ 11. 7 シンポジウム(仮題)
「発信 グローバル化時代の地域社会像
—自治体と大学の連携を通じて—」
- その他 計画中の企画多数 追って発表予定

2007年度(平成19年度) 収支報告書

自 2007年4月1日 至 2008年3月31日

収入の部

(単位:円)

科目	決算額	次年度予算
1. 会費収入	2,213,000	2,340,000
2. その他収入	555,767	600,000
1) 雑収入	40,000	30,000
2) 預金利息	22,525	20,000
3) 寄付	88,496	150,000
4) 校友会大学部会補助	404,746	400,000
当期収入合計	2,768,767	2,940,000
前期繰越金	10,513,181	10,459,445
収入合計	13,281,948	13,399,445

支出の部

(単位:円)

科目	決算額	次年度予算
1. 事業費	402,500	400,000
2. 会報発行費	357,931	400,000
3. 印刷費	363,833	400,000
4. 通信交通費	336,700	400,000
5. 会議費	131,155	200,000
6. 事務費	81,555	100,000
7. 名簿管理費	504,000	500,000
8. 奨学	450,000	450,000
9. 雑費	144,829	140,000
10. その他	50,000	50,000
当期支出合計	2,822,503	3,040,000
当期収支差額	△ 53736	△ 100000
次期繰越金	10,459,445	10,359,445
支出合計	13,281,948	13,399,445

2009年度年会費を納入されていない方は下記へお振込下さい。
ゆうちょ銀行(旧郵政公社)
口座番号: 00160-2-134995
加入者名: 青山学院大学経済学部同窓会
通信欄にご記入下さい: 住所/氏名/1部2部商経 卒年/年会費種類

AONサロン

美術プロデューサーとしての思い出

林 隆宣 ('77)

2単位、一時間の出席時間不足を理由に一年間の留年を経た後、青山学院大学を卒業して32年が過ぎました。大手出版社勤務3年、スカウトされた百貨店美術担当バイヤーを7年、計10年のサラリーマン生活に別れを告げ、青山通に面した赤坂見附で美術ギャラリーを創業して今年で23年目になります。

プロデューサーとして400本近い美術展を開催してきましたが、最も記憶に残るのはフランスの写真家ロベール・ドアノーとの出会いです。

ニューヨークのロバート・キャパとパリのロベール・ドアノーは写真界の大御所。この大家に写真を撮って欲しいと、書家としてプロデュースした緒形拳氏から依頼を受け、彼の情熱にほだされ、引き受けたのが巨匠ドアノー氏との撮影交渉の始まりです。

幾度の手紙、フランス在住の友人、パリの画商を通じての交渉結果は「アジア人の顔は撮りたくない」、「これまでに取ったアジア人はレオナルド・藤田と親友で同じ写真家の木村伊兵衛だけだ」という傲慢さに満ちた返事でした。そんな折たまたまギャラリーに来廊したパリ在住の日本人女性が「夫がドアノーと親しい。子供のように可愛がってくれている」と聞き、仲介をお願いしたところ、これまでの苦労が何だったのかと思わせるほど手際よく話がまとまりました。彼女の夫とは作曲家、歌手のピエール・バルー。

ドアノー氏が主宰するサロンのメンバーだったのです。フランスは日本と違い所属団体より個人的なサロンが芸術家たちの絆の単位となっています。サロンという一見拘束性がないと思われがちな集団があらゆる企画に力をもっていることを思い知ったのです。

1年間の準備の後、日本橋三越はじめ全国4ヶ所の百貨店で開催した「墨童 緒形拳書展」「ロベール・ドアノー写真展」は15万人動員し、成功を収め、会心の企画となりました。ドアノー氏はこの作品展が最後の仕事となり1996年84歳で亡くなり、緒形氏も昨年10月6日71歳で他界しました。平成5年1月1日から1週間、撮影のためパリの下町で過ごした楽しかった思い出も今は私だけの思い出となりました。

編集後記

飯村 肇 ('60)

09年、経済学部同窓会は創立10周年を迎えます。経済学部も創立60周年を迎え「伝統と進化—経済学部の昨日、今日、明日—」というテーマで記念事業を展開することになりました。同窓会は経済学部の記念事業に協賛参加します。また、同窓会の事業も経済学部の協賛で実施されることとなります。「伝統の中での新生、経済学部の新たな出発」を目指して計画される様々な企画・イベントに一人でも多くのOB・OGの積極的な参加を期待しております。皆さまのご理解ご協力をお願いいたします。詳細については、経済学部同窓会ホームページ「<http://oikos-nomos.com>」などで随時紹介してまいります。

青山学院大学経済学部同窓会会報 第14号

2009年3月31日発行

発行者 太田 義男

発行所 青山学院大学経済学部同窓会

皆様からの情報やご投稿、入会申込、会費納入等のお問合せは下記へ!

〒150-8691 渋谷郵便局 私書箱145号

ホームページ: <http://oikos-nomos.com/>

E-mail: info@oikos-nomos.com